

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3170100923		
法人名	社会医療法人 明和会 医療福祉センター		
事業所名	グループホームさくらはうす・つばきはうす		
所在地	鳥取県鳥取市覚寺180番地		
自己評価作成日	平成28年7月15日	評価結果市町村受理日	平成28年9月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人鳥取社会福祉評価機構		
所在地	鳥取県鳥取市良田39番地		
訪問調査日	平成28年8月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> 生活上全ての場面で入居者の能力を活かしながら自分らしく生活できるよう支援している 入居者同士がお互い助け合いゆったりと生活を送る姿も多く、思いや希望を表出しやすい関係作りに努め希望の実現に努めている クラブ活動などでグループホーム間の交流を図ったり、地域のイベントへの参加や交流、希望の外出などホーム内に留まらず活動的に過ごせる支援を心がけている 個々の能力の活用や機能維持に努め、心身のよい状態を長く維持しながら入居年数が長く生活できている
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>設立後12年以上経過している施設であるが施設内は清潔に保たれている。全ての職員が介護福祉士の資格を持ち、社会福祉士やケアマネージャーの有資格者も居る。過去1年間に職員の異動は無く、10年以上の介護経験を持つ職員も3人おり、経験豊富な職員による手厚く、利用者の尊厳を重視した介護が行なわれている。入居後数年で介護度が改善したために退所して自宅に帰られた利用者も多数おり、現在の入居者の中にも入所時は介護度4の方が現在では介護度2まで下がっている方もおられるほど手厚く適切な介護が出来ている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有し活かしていけるよう、運営理念や生活理念を掲示したり地域交流の計画を立てながら地域の中のグループホームとして理解につなげている。認知症があっても自分らしく、住み慣れた地域で生き生きと過ごせ、安心や生きる喜び、自信の持てる暮らしの支援が継続していけるよう努力している	人間としての尊厳の尊重や地域との交流を理念に掲げその理念を実践するように、利用者本人の意思を最大限発揮できるようにケアしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今までの地域とのつながりを継続しており、幼稚園、小学校との交流やボランティアの方々の支援がある。地域の民生委員の方も毎年かき餅作りに訪れたり、公民館祭には日常の作品を展示させてもらったり、地域の方から食べ物差し入れや、散歩時やスーパーでの挨拶や、顔を見に来て下さる等日常的な交流もある	地元の幼稚園児や小学校の生徒と年に各6回づつ交流しており、近所のスーパーの職員とも気軽に話し、地域との交流を特に大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	季刊誌を配り認知症への理解や支援を発信している。民生委員より認知症の方とのコミュニケーション方法の相談を受けたり、運営推進会議では認知症ケアの事例報告を行い、認知症への理解や支援を積極的に伝えている。地域住民や民生委員、自治会などの方達と意見交換が行えている。介護実習生の受け入れも人材育成にも取り組んでいる		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの状況を細かく報告しながら参加者から多くの意見を頂いている。地域行事の情報提供や、事業所で困っている事などあれば地域の議員の方に相談してくれ助言を頂くこともあった。認知症支援の事例報告などでお互い勉強し合える機会を作ったり、グループホーム主催の地域行事(夏休み作品作り)も提案、相談し実行できた	運営推進会議は法人内のグループホーム合同又単独でも行なっており、服薬に関する意見が出てた会議では其の後の運営にその意見が活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今まで同様、施設長や管理者が主となり情報交換を行っている。日常的にも電話やメールで情報交換を行っている。内容は職員に伝達もしている。運営推進会議でも市担当者から鳥取市の介護保険の情報や施設状況などお話を伺ったり、取り組みに関してアドバイスを頂いており、実情を理解してもらおうようにしている	鳥取市へは施設内の事故報告を行っており、施設の広報誌も配布して市との連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束しないケアが根付いている。会議やミーティングで現在のケアが身体拘束になっていないか話し合う機会がある。研修参加も毎年行いながら、身体拘束しないケアの重要性を再認識している。防犯上夜間の玄関を施錠するのみで自由に開かれた環境を作っている。また掲示にて意識付けをしている	職員研修を年に2回行なっており、職員全員が身体拘束のデメリットを把握し、全員で話し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃より利用者の様子に目を配りながら対応が難しい場合があれば日常的にスタッフ間で相談しあいながらストレスを溜めない配慮をしている。 虐待防止の意識を持ち丁寧な対応を心がけている 研修の機会があれば参加し情報共有している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	成年後見制度を活用されている利用者もいて、身近な制度としても関心を持っている。研修会の参加や、後見人、保佐人の方達と情報交換し学ぶ機会が継続されている。制度の利用がない方も状況を見てご家族と相談し、必要な場合は、法人内のソーシャルワーカーと相談、協力して利用を促進できる環境を整えている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居希望時は家族だけでなく、ご本人も見学に来て頂くなど、少しでも不安解消に努めている。契約時には重要事項や契約書を説明し、不安や疑問、意向を尋ねながら理解、納得を得るように努めている。契約時よりも状態の変化が見られれば、その都度説明や再確認して頂きながら理解につなげている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	信頼関係作りに努め、意見や希望を言い易い環境を心がけている。来訪時にこちらから声をかけ意見をお聞きしたり、家族会や運営推進会議でも意見を頂け、外部者へも伝わり意見を貰っている。意見箱の設置や、他部門にも苦情相談窓口を設けている。貴重な意見は会議等で職員間で共有し反映できるよう取り組んでいる	家族会は年に2回開催しており、ご家族からの意見を聞いた職員はノートに記載して全員で共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員間でコミュニケーションを図り、個々の考えや意見を聞く機会や環境がある。提案を連絡ノートや、スタッフ会議で話し合っており、皆で意見を出し合いながら実践に繋げている。皆の意見を管理者会議で施設長に報告や提案もできる。年に1度個人面談があり意見や提案を聞き反映できるようにしている	年に一度は個人面談を実施しており、又日々の業務の中でも管理者は意見を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護業務以外にゆとりある勤務日を作り、取り組むべき業務に専念できるよう体制を作っている。入居者の状態により負担度に変化するが、その都度業務を見直して改善を図ったり、経験等も考慮し、役割を分担しながら働きやすい就業環境となるよう努めている。経験や能力などによりステップアップできる体制がある		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の経験や力量によって階層育成の基準がありそれぞれの職務レベルによって役割を担っていきけるような体制があり、レベルに応じた内外の研修参加を勧めている。研修後は伝達講習をしたり勉強会を開催したり、職員間で互いに意見交換し学びながら日々の実践力の向上を図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が集まりネットワークの会を作って定期的に意見交換しながら取り組みを参考にしたり、合同行事を計画して交流している。協会の相互研修に参加し、他の事業所のケアサービスを学び自施設のケアを見直している。他事業所の運営推進会議に出席し情報交換の中で職員へ伝え、学びや質の向上の機会としている		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前から情報を得よう努め、訪問調査や聞き取り等行ったり、施設見学をしてもらい入居の準備を進めている。環境が変わることに配慮し、困り事、不安な事、要望等を聞き取り、入居後スムーズにケアにとり入れながら信頼関係を築くよう努めている。必要なケアについて本人とも相談しながら安心に繋げている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には施設見学や意向確認を行い、困り事、不安に思う事、要望等をしっかりと把握し、意向に添うケアが提供できるように努めている。どの職員も状況を把握し、ご本人の様子を伝えることができるよう心がけたり、来訪時、お便り、電話、介護計画の説明などを通じ、ご家族にも理解して頂けるよう関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談で得た情報や本人、家族の意向をもとに担当者を含めて話し合い、必要なケアを見極めて介護計画を作成し、同意を頂いてケアを導入している。生活の様子を観察しながら、必要に応じてサービスの補足を検討している。職員間、介護支援専門員、医師、看護師、ソーシャルワーカー等と連携し、他のサービスも検討し対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事、したい事は一緒に楽しむ事を大切に、見守りながら必要以上に手を出さず、自信と安心につなげるようにしている。共に生活し馴染みの関係を築く中で、多様な希望が引き出せている。希望で可能な事は、実現できるよう努力をしている。お互いが教えあい、励ましあい、利用者と同じ目線で生活するよう心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の立場でできることを支援して頂くよう説明し、共に協力して頂いている。その都度相談しながらより良い関係作りに繋げている。本人との関係性や想いも考慮しながら、情報を共有し、職員で補えない部分をできる範囲で協力していただける関係作りに努めている。協力が難しい家族にも情報提供はその都度行い、ご理解いただけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や知人・友人・近所の方等、面会が比較的多く、ゆつくりとくつろいで頂く環境を作っている。ご家族の外出、外泊の支援もある。一人ひとりの情報をもとに馴染みの場所に出かけたり、大切な人と手紙や電話で連絡を取り合ったり、今までの関係性が維持できるよう支援に努めている	元の住まいまでドライブしたり、趣味の仲間との交流を後押ししてなじみの関係の継続に積極的に努力している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるような支援に努めている	共同生活の中で人間関係を把握し、仲間と感ぜられる雰囲気作りをしている。皆で過ごす時間、気の合う者で交流する時間、少人数で過ごす時間を大切にしている。トラブルがあってもお互いをフォローし、不快なく過ごせるよう配慮し、環境設定を行ったり、一緒に楽しく、笑い、支えあえるよう、和を大切にしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院のため退居に至った方には、利用者を連れて見舞いに行ったり、ご家族とも近況についてお話ししたりしている。退居後もご家族が野菜を持ってきて下ったり、お手紙を出し様子を尋ねたり、立ち寄り話や相談などされる事もあり、これまでの関係性を大切に出来るよう努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	信頼関係を築き、一人ひとりの希望を引き出し、可能な限り実現できるよう努めている。希望の表出が出来ない方でも、ご家族からも情報を頂き、ご本人の以前の生活、望んでおられた生活に少しでも近づけるよう、日頃の関わりの中で様子をよく観察し、表情や反応の良いものを支援できるよう努めている	法人内のグループホーム共通で趣味のクラブが4つ有り、利用者は自分の好きなクラブの活動に参加して趣味を活かした生活をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日頃からご本人、家族にお聞きしながら、その情報がその人らしさを引き出せるヒントであると認識し支援に活かしている。会話や関わりの中で知れた情報や以前利用していたサービス機関からも情報をもらいながら、アセスメントに追加して細かな点も把握でき、馴染みの暮らしや環境づくりに努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムや心身の状態を記録し情報を共有している。得意な事、やりたい事を把握し意欲的な生活に繋げている。個々のペースに合わせた生活の中で、メリハリをつけ休息と活動のリズムを作り、能力発揮の場を提供したり、自信を感じられるよう心掛けている。手を出しすぎず有する力を活かせるよう支援し状態の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意向、主治医その他の関係者の意見も踏まえ、本人の状態をミーティングや会議等で情報共有し、より具体的なケアになるよう検討している。モニタリングを毎月行いながら、計画が現状に即しているか検討し、3ヶ月に1回、本人が前向きとなる支援を心がけた介護計画となるよう作成している	本人の意向を汲み取りクラブ活動を介護計画の中に入れて支援しており、モニタリングや評価も適切に実施されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に活動状況、介護サービス提供、一日の様子(言動、要望、普段と違う様子、医療的事項など)を記入したり、介護計画に必要な情報として介護支援経過記録へ記入し、課題の把握をして介護計画の見直しへ繋げている。日々の変化や職員の対応も記入し職員の気づきを共有できるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態や意向の変化に対応し、継続したサービス利用に繋げる相談支援や、機能維持等の身体支援をリハビリに相談しアドバイスをもったり、食事に関する相談は栄養士に意見を求め活かしている。受診支援や帰宅支援をしたり、グループホーム間でのクラブ活動、地域の子供達に物作りイベントをして事業所に来てもらうなど柔軟な対応に努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的なボランティアや地域の運動会、納涼祭、公民館祭等交流の機会がある。民生委員さんによるかき餅作り、園児との交流、図書館利用等、本人の暮らしの安らぎに繋げている。近隣に出かける機会を多く持ち、外出中に声を掛けてもらったり地域での暮らしを楽しめる支援をしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご本人やご家族に意向を確認し、かかりつけ医の決定を行っている。協力医療機関には、いつでも連絡、相談できたり細かな情報提供を行っている。必要に応じ外部の専門医療機関へも受診がスムーズにいく様、主治医より紹介状を頂いたり適切な医療を受けられるよう支援している	入居前のかかりつけ医の受診となっている。本人、家族と話し合い希望する医療機関へ受診支援している。、受診前は受診記録表で情報を伝達しており、家族にも受診日には伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接病院の外来看護師がグループホーム担当で、日頃より情報伝達し利用者の状態を把握している。いつでも相談、指示を仰ぎやすい体制となっており、適切な治療や看護を受けやすい。 職員に看護師もおり日常的な状態の情報共有を行い状況に応じた判断や治療の援助も受けられる体制となっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	緊急時の入院は、ご本人やご家族の希望に添えるようにしている。急な場合も連携を図るため介護連絡表を作成し、情報を伝え易くしている。医療機関と連携し、入院時は面会し状態の確認や、ソーシャルワーカーや病棟担当者等と情報交換し早期退院に向け治療計画を立てて頂いている。また入居継続の可否の判断も情報交換、相談をしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者が重度化した場合、その人に合った環境を法人全体で支援する方針を入居の段階で説明し、理解を頂いている。状態の変化や重度化が感じられる場合、その都度ご家族と面談を持ち、支援の方向性を確認している。また主治医やソーシャルワーカーと連携をとり、他施設の紹介や入院など円滑に進めれるよう支援している	重要事項説明書に重度化や終末期に向けた方針が明記されている。入居時に説明し、日常的に主治医、家族、ソーシャルワーカーとも話し合っている。本人、家族の希望を聞き、安心できるように全員で対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備えてマニュアルを作成しており、会議で話し合いも行っている。各入居者の考えられる急変を主治医に確認をとり、状態の変化に対応できるよう心がけている。 救急蘇生法の研修や訓練に順に各職員が参加できるようにし、伝達して実践に役立てれるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣接の法人病院と一緒に災害対策を検討したり、訓練を定期的に行っている。様々な災害対策のマニュアルの作成や、運営推進会議でも地域の方、家族に協力いただけるよう情報提供している。火災報知機、スプリンクラーや耐震設備、通報装置は充実しており利用者の安心ともなっている	避難訓練を消防の参加により定期的に行っている。法人の中での協力体制はできている。テレビを固定したり、食料等の備蓄の準備もできている。不審者対応についてもマニュアルを作成している		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の意思、決定を尊重し言葉かけをしている。無理強いせず、待つ姿勢や、心地よく感じられる対応を心がけている。人格やプライバシーを考慮し、排泄時の声掛けや、介助の仕方など個々に合わせたさりげない対応や、面会も他者の目が気にならない配慮したり、居室にて安らげる様プライバシーの確保に努めている	研修は年1回行い、プライバシーについて確認している。個人が特定されないようにノートに記入したり本人に聞こえないようにイニシャルを使ったりして対応に配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の考えではなく、待つ、見守る姿勢を心掛け利用者本人が決断したり、意思を表しやすい環境づくりをし、信頼関係を深めながら毎日の支援を継続している。日頃より表情などを観察しながら本人の思いを読み取り、自ら思いや希望を表出、行動できない方でもさりげない働きかけで行動を引き出せるようにしている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先せず一日のスケジュールは利用者の希望を聞きながら決めたり、体調やペースに合わせた生活を支援している。役割や日課があったり、日中の過ごし方を決めて行動される方もおり、見守りながら、希望や必要に応じて様々な働きかけを行っている。活動と休息のバランスを考えながら個別性のある支援に努めている			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の際にはおしゃれ着に更衣したり、化粧をしたり、こだわりや好みを大切にその人らしさを支援している。行きつけのお店に行ったり、福祉理美容を利用したりと好みのカット、カラーができるよう家族と職員が協力し支援している。普段着も自分で選べるよう支援し、必要に応じ一緒に購入に出かけ楽しみの時間を共有できるよう支援している			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	希望や旬のものを取り入れて献立を作成し、BGMや会話で雰囲気作りをして、季節を感じたり食べる楽しみを作っている。3食以外でも調理し、自分で作って食べる楽しみも支援している。能力に合わせ、工程を分担したり、準備、片付けも一緒に行って力を発揮できるよう支援している。外食も皆や個別に支援し時間を問わず楽しみを提供している	利用者同士が調理、片付けをしている。もらい物や畑のきゅうり等を食材にし、音楽を流して職員と話をしながら笑顔で食事をしている。喫茶クラブやそうめん流し等企画し食事を楽しんでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の病状に合わせた食事内容・食事量の配慮ができるよう栄養士と相談しながら食事提供している。日々の食事量、水分量などを記録し水分摂取がしにくい方には、ゼリーやスポーツ飲料、好みの飲み物を提供したり提供時間を工夫しながら水分量が確保できるようにしている。嚥下の状態も見ながら、とろみをつけるなど安全に食事量が確保できるよう支援している			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個々の能力に応じて促し、見守り、助言、介助を行い、口腔内の清潔を保てるよう支援している。定期的な歯科受診を受けている方もいて、歯科医から助言をもらったり、義歯、歯ブラシ、コップなどの洗浄、消毒を定期的に行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレを使用していける様、能力維持を図っている。排泄パターンを把握し、適切な誘導や個々にあったパット、布パンツへの移行を心がけている。失禁の原因を探り失敗を減らしながら、排泄への自信に繋げている。清潔保持や快適に過ごせるよう配慮したり、さり気ない声掛けや自尊心を大切にしながら自立にむけた支援を行っている	全員がトイレで排泄している。日中は布パンツで時間帯に合わせてパットやリハビリパンツを使用している。生活リズムによって利用者の排泄サインを把握し、失敗ないようにトイレ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便の状況を観察し、水分摂取や適度な運動を心がけ、食物繊維の多い食事を工夫したりできるだけ自然な形での排便となるよう配慮している。便秘による精神的な影響も考え、下剤の調整もあるが、適切な量となるよう看護師や医師と相談している。ヨーグルトや牛乳、お茶ゼリーや果物、好みの物で水分量を補いながら便秘予防に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や希望に応じながら、午前、午後いつでも入浴できるようにしている。季節を感じたり、皮膚状態に合わせた洗剤を検討したり、個々に応じて入浴が快適なものと感じられるよう配慮している。拒否のある方には原因を探り、声かけを工夫したり、タイミングを見ながらご本人がその気になれるよう働きかけ定期的な入浴が行えるよう配慮している	毎日入浴できるようになっており、夏期はシャワー浴されている利用者もいる。CDを流したり入浴剤を使用したり、菖蒲湯や柚子湯にしゅったりとした気分での入浴となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を大切にしながら、日中の活動性を高めることで、夜間の安眠につながるようにしている。個々の体力や体調に合わせ活動にメリハリを持たせ職員から休息を促したり、落ち着かない方には、寄り添い、話を傾聴しながら安心して休むことが出来るよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理と内服支援を行い医師の指示通りに内服できるよう支援している。個々の処方内容をいつでも確認できるようファイルし、重要事項や禁忌事項の把握に努めている。処方変更があれば全スタッフで情報共有し、様子の変化を観察している。生活の様子や状態に合わせ適切な薬の処方につながるよう主治医へ報告相談を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や趣味、嗜好を把握し生活の中で楽しんで取り組みながら、役割意識や気分転換が図れるよう支援している。クラブ活動も楽しみ、個人で新聞をとったり、散歩、家事、塗り絵や計算ドリルなどが定着し日課になったり、嗜好品購入の外出も楽しみに繋がっている。利用者のやりたい事を普段から聞き出し、実行している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日のように出かける機会がある。散歩や畑を見に出たり、買い物や図書館、個々の馴染みの場所や希望に応じ様々なところへ出かけている。 ご家族とも地域に外出したり外泊の支援も多い。家族会では普段行けないところ出かけたり、地域の行事にも参加し協力していただいている	日常的に散歩や買い物に出掛けている。利用者の希望により自宅近くの墓参りに出掛けたり、歌の好きな方は100曲マラソンに行き、一人ひとりに合わせ全員が外出できるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の同意のもと、お小遣い程度の金銭を所持し、外出時などに自分の買い物や外食をしたりして楽しみながらお金を使えるよう支援している。持っているだけでも安心に繋がっている方もおられたり、本人の能力や精神状態を考慮し、ご家族と相談しながら支援につなげている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	備え付けの公衆電話の利用や、希望によって職員が連絡し本人と話をしてもらったりと柔軟に対応している。手紙のやり取りも多い。 正月には年賀状を出したりできるよう支援している。家族や知人からの電話もよくあり、様々な人達とのやり取りを大切にしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫を	季節を感じる飾りつけや花、明るいホーム内の雰囲気作りを心がけている。食事作りの雰囲気や匂いを感じたり、誰かが居る安心を感じられる。リビングで新聞、本を読み、音楽が流れ、趣味活動を行ったり、好みに応じた心地よい生活空間となるよう配慮している。混乱を招かないよう適度に張り紙や鏡の工夫をしたり、明るさや室温管理なども配慮している	廊下にはクラブ活動の作品を展示し、フロアは毎月季節感ができるように利用者が作った貼り絵等が飾ってある。家族の方にわかるように行事の写真を貼って家庭的な雰囲気がする。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングではテレビを見たり、会話をして過ごせたり、同じ活動をしてコミュニケーションを取ったりしている。談話コーナーでは気の合う者が少人数で過ごす様子や1人でテレビを見る事も出来ている。廊下の途中にもソファやテーブルがあって落ち着く場所となり会話したり趣味の活動をしたり、それぞれの居場所がある		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の生活にあった環境づくりを心がけ、机、化粧箱、仏壇、家族写真、本、趣味の物など、習慣に合わせた物が持ち込まれ、過ごしやすい空間となっている。自分の時間が過ごせ、生活スタイルに添った居室となるよう、家族に持ってきてもらったり本人と相談して買い足しながら、安心して過ごせる室内となるよう工夫している	家族写真、仏壇、家具、趣味の本など利用者の馴染みの物や好みの物が持ち込まれている。利用者の意見を聞いてベッドの位置を変えたり、居心地良く暮らせるよう話し合い配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	状態や能力に合わせて分かりやすく表示をしている。食器棚やタンスなど収納場所を分かりやすくしたり、居室の表示を立体にしたり、さり気なく目印や動きやすい工夫をし環境整備している。手すりを設置したり、フロアマットにテープをはり転倒防止に努めたり、安全に生活が送れるよう動線を考え家具の配置を考えたりしている		